

平成31年度病害虫発生予報第2号

平成31年4月25日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	平年並	県全域	前年6月下旬の本田発生量は平年並 前年の予察灯における誘殺数は平年並	± ±
ムギ	うどんこ病	多い	県全域	4月下旬の発生量が多い	+
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並か少ない	± ±~-
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬現在、発生を認めていない(平年並)	±

・防除対策

[コムギ・うどんこ病]

本日発表の「ムギ類うどんこ病情報」を参考にしてください。

・留意事項

ムギ類赤かび病については、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第2号」を参考にしてください。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	3月の越年発病葉率は高い	+
	ミカンハダニ	平年並	県全域	3月上旬の発生量はやや多い 5月の気温は低い	+-
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は平年並 4月下旬の発病葉率は高い 5月の降水量は平年並か少ない	± + ±～-
	アブラムシ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は低い 5月の降水量は平年並か少ない	± - ±～+
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	せん孔細菌病	多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月下旬の発病枝率は高い 5月の降水量は平年並か少ない	+ + ±～-
	ナシヒメシンクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬現在、被害を確認していない(平年並) フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	べと病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
	うどんこ病	少ない	県全域	前年秋の発生量は少ない	-
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世代成虫密度は平年並	±

・ 防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

ナティーボフロアブルやベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

デランフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

本日発表の「平成31年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

[ブドウ・べと病]

アリエッティC水和剤、ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

〔カキ・炭疽病〕

ベルコート水和剤、ストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

有効積算温度を利用して各種害虫の防除適期を予測しました。チャノキイロアザミウマ及びクワシロカイガラムシの防除適期は、本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」及び「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。その他、ナシマルカイガラムシの防除適期は、今のところ5月末から6月上旬、フジコナカイガラムシは、6月上旬から中旬と予測しています。今後の気温経過で発生ピーク日が前後するため、5月中旬頃にこれら害虫について、最新の気象データを用いて計算し直し、防除適期に関する情報を提供する予定です。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は低い 5月の降水量は平年並か少ない	± - ±～+
タマネギ	べと病	少ない	県全域	4月下旬の発生量は少ない 5月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
トマト (施設)	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	-
ナス (施設)	うどんこ病	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い	+
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間は平年並か多い	± ±～-
	ハダニ類	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い	+
	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の日照時間は平年並か多い	± ±～-
	灰色かび病	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い 5月の日照時間は平年並か多い	± ±～-
	アザミウマ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔ナス・うどんこ病〕

ダイアメリットDFやネクスターフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス・ハダニ類〕

ダブルフェースフロアブルやエコピタ液剤などで防除しましょう。

〔キュウリ・べと病〕

ゾーベックエニベルやザンプロDMフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ・灰色かび病〕

ダイマジンやピクシオDFなどで防除しましょう。

・留意事項

ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（病原：MYSV）、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミが媒介するトマト黄化病（病原：ToCV）が発生しているほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、親株床でアザミウマ類やアブラムシ類の発生に注意し、発生を認めたら防除を徹底しましょう。また、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はアザミウマ類やハダニ類が増加する時期になります。本ほと親株床を含めた防除に努めましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台4月25日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、少雨の状態が続く所があるでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、低い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：50% 平年並：30% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%